

診断あきた



◆発行 社団法人 中小企業診断協会 秋田県支部
〒010-8572 秋田市山王3丁目1番1号 県庁第2庁舎
秋田県企業支援センター内
TEL018-860-5512 FAX018-823-8257
E-mail jsmeca05@ma3.justnet.ne.jp
ホームページURL http://www.shindan-akita.com/

平成15年9月30日

第12号

平成15年度 支部通常総会 開催

15年5月24日（土）秋田市の平安閣を会場に平成15年度秋田県支部通常総会を開催しました。昨年度の事業報告及び決算報告、今年度の事業計画及び予算案の各議案が原案どおり承認され、その後支部役員の改選も行われ、2名の理事が退任、新たに3名を理事に選任しました。

また総会の席上、今年度協会本部より永年表彰を受ける2名（亀谷、佐藤会員）が紹介され、当日出席の佐藤会員が代表して記念品を受け取りました。



◆平成15年度活動計画◆

- ①中小企業診断士更新研修（理論政策更新研修）会の開催
- ②広報活動の充実・強化・・・「支部会報の発行」
・・・「支部ホームページの更新・充実」
- ③調査・研究事業の実施
来年度の調査・研究事業の実施に向けて、今年度はその検討・準備を行います。
- ④会員の増強と組織の強化
入会促進活動を強化し会員の増強を図ります。

◆平成15年度事業実施計画◆

平成15年4月26日	理事会開催
” 5月24日	支部通常総会開催
” 8月予定	会報「診断あきた(第12号)」発行
” 9月6日	登録更新研修会開催
” 11月29日	支部会員研修会開催
平成16年2月予定	会報「診断あきた(第13号)」発行



永年表彰を受け受賞挨拶をする佐藤会員

支部役員及び各委員会所属会員の一覧

通常総会において任期満了に伴う支部役員の改選が行われました。

これまで永年に渡って支部の発展にご尽力されてきた高橋広悦会員（前副支部長）と亀谷實会員（前理事）のお二人が退任され、富野忠雄、成田治男、荒牧敦郎の三会員が新たに理事に選任されました。また事務局は登録更新研修事務はじめ会計・諸会合等々これも長期間ご難儀をかけた古木会員から、会計は本間支部長、文書事務は富野会員という分担で担当することになりました。

新理事のお三方にはフレッシュな視点で支部活動に新風を吹き込んでいただき、事務局担当会員にはご負担をかけますがよろしく願いいたします。

◆支部役員◆

通常総会において承認された理事・監事及び理事の互選で選任された今年度の支部役員は次のとおりです。

支部長	本間良一	理事	荒牧敦郎	理事	成田治男
副支部長	工藤義和	理事	佐瀬道則	理事	古木 智
副支部長	村上 明	理事	佐藤幸治		
		理事	高橋 彦	監事	熊井春美
		理事	富野忠雄	監事	佐藤直伸



理事会の様様



理事就任の挨拶をする富野・荒牧会員

◆平成15年度所属委員会一覧◆

さる6月21日(土)に開催された支部役員会において、今年度所属委員会が次のとおり決まりました。各委員会とも自主的に活発な活動を期待します。

○登録更新研修実行委員会（4名）

委員長；本間良一
委員；高橋 彦、富野忠雄、古木 智

○ホームページ開設プロジェクト委員会（5名）

委員長；荒牧敦郎
委員；工藤義和、佐瀬道則、成田治男、堀辰生

○研修委員会（5名）

委員長；工藤義和
委員；荒牧敦郎、佐瀬道則、高橋 彦、富野忠雄

○広報委員会（5名）

委員長；佐瀬道則
委員；荒牧敦郎、佐々木正記、佐藤幸治、村上明

○調査・研究事業委員会（8名）

委員長；工藤義和
委員；荒牧敦郎、佐々木正記、佐瀬道則、
佐藤直伸、富野忠雄、成田治男、堀 辰生

○事務局

会計；本間良一
文書事務；富野忠雄

理事就任挨拶



『夢、幻の如く也』

秋田県企業支援センター
富野 忠雄

平成13年6月29日午後2時35分、世の中が突然慌ただしく回り出し、しっかり地に足をつけていること叶わず、生まれて初めて救急車で運ばれました

意識の中では、「折角乗った救急車だから、しっかり見ておこう。」と思ってはいるものの、目を開けると天井は勿論、壁も床も回り出す始末。後で聞いた話では、救急車に乗せられた時、血圧は200を超えていたとかで、周りの良識ある人々には「脳卒中患者」と思われていた節。(一心の叫び；私奴は大酒呑みではありませんせ～ん)。しかし、そんな事を知る由のない私奴は比較的冷静で(実は「知らない者の強み」で)、救急隊員から「手を握って、開いて。」と2度も言われ、「あつた人に対する言い方と同じ！」と感じつつも、3度目に言われた時には、「何度も繰り返し言われては敵わないな！」と思い、指示なしで、指を1本ずつ折っていったら、さすがに2度と言わなくなり、やれやれと、一安心。しかし何よりも嘔吐が酷く、私奴の気持ちの中では「昼食に何か悪いものでも食べたっけ？それにしても食中毒で救急車に乗せられるなんて情けない！」と全般的外れのことを考えておりました。兎に角「今日の帰りは遅くなるな！」と気になっていましたが、家族の暖かみをあらためて実感した付録と共に、正式に退院出来たのは19日後のことでした。

後で考え直してみると、実態を知らないばかりに、決して慌てることなく、自分に都合の良い方のみ解釈していたことが、可笑しくも支えになったのかも知れません。(これは、経営が悪化したことを知らない、または知りたくない経営者と同じ心境なのでしょう。)この突然襲った症状は、最後に「メニエール氏病」と診断され、血圧の関係もあり、以降、アルコールは1滴たりとも口にせず、極めて健康的な(?)生活を強いられております。それにしても、基準となるべき寄って立つ場所がなくなり、奈落の底に引きずり込まれる様な、何とも言い様のない感覚で、ギュッと掴んだベッドの鉄枠が世界と私奴を繋ぐ唯一の絆だった初期段階の病床経験は、2度としたくないもののひとつです。

約1週間でベッド上安静が解除され、病室が変わって、点滴スタンドを押しながらよろよろと病院内を歩けるようになると、老人主体の病棟に移されまして、



今年度新たに理事に就任した3会員に、抱負を述べていただきました。

気をつけてみていると、毎日の様にどこかのベッドの主が所々で変わっておりました。暑苦しい眠れぬ夜、深夜から明け方にかけて、ザワザワッと人の気配がして、そして潮が引く様に静けさが戻って、それでベッドの主が変わって・・・。

そして、もしかしてあそこで私奴の人生は終わっていた可能性があったんだろうなと思うと、今生かされている分は支えてくれた人達へしっかり恩返ししなくてはと思いつつも、事務局を一人で6年間支え続けた古木先達の並々ならぬ御尽力には到底届かず、唯々頭の下がる思いをしております。

本間支部長の統率の下、会員の皆様の御協力を仰ぎながら、事務局運営のお手伝いを多少なりとも出来ればと考えております。

宜しくお願い致します。



『理事という仕事』

(株)秋田銀行 審査部
荒牧 敦郎

今年度、秋田県支部の理事となりました荒牧です。

とはいえ、正直言って理事の仕事についてまだよく分かっていない状態です。先日、第1回理事会に参加しましたので、何とか理事としてのスタートを切ったのかなあと思っています。

中小企業診断協会・秋田県支部に在籍して、いつの間にか結構長くなりました。初めの頃から比べると、支部の活動もずいぶん活発になったなあと感じます。研修も支部独自のものをやるようになりましてし、調査研究事業も2回行い、曲がりなりにも報告書という形で成果を発表することができました。

会員はみんなそれぞれの仕事を持ちながら、その傍らで支部の活動をする訳ですのでなかなか大変ですが、これまでの活動に少しでも新たな成果を付け加えられるように、微力ながら貢献したいと考えております。まずは、支部ホームページの改善に取り組むことが課題です。

皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。



『理事就任にあたって』

㈱富士通秋田システムエンジニアリング
成田 治 男

平成15年度支部理事に任命され、6月21日開催の第1回支部役員会において、調査・研究事業委員会とホームページ開設プロジェクト委員会の活動に参加することになりました。

以前から支部ホームページの運営に関しては、「出来る事があれば是非、やらしてください。やりますよ。」と申し上げていました。企業内診断士ではありますが、なにかかたちに残る貢献をしたいと考えています。皆様のご支援と指導の程をよろしくお願い致します。

ところで「ホームページって何？」と問われたら、皆さんは何と答えられますか？

インターネットの先にある、企業や官庁、団体が様々な情報を提供している所という答えでしょうか？その通りです。でも、ちょっと違います。この数年、ホームページはどんどん、どんどん進化し変化しています。ホームページの新しい機能を体験した人は、「ホームページって何？」という問いに対し、先の答えとは全く違った答えをする筈です。

女性達は有名ブランドや秋田では売っていない商品をインターネットでショッピングをします。彼女達に言わせると、「ホームページってインターネットのお店屋さん。宅配便の窓口よ」と答えるかも。うちの小学生の子供はインターネットでゲームをしています。

もしかしたら「ホームページってインターネットのゲームマシンに決まっているじゃーん」と答えるでしょう。そして私は、会社でホームページを作って社内、社外の情報を収集し、上司や部下とコミュニケーションをとり、スケジュールを管理しながら仕事を進めています。私にとってホームページは図書館、マスメディアであり、仕事の成果を報告、プレゼンテーションする場です。

電子政府や電子自治体、遠隔医療、e-learningなど、ホームページはまさに“いつでもどこでもだれとでも”つながっているユビキタス社会の社会インフラ、コミュニケーション手段として変貌しつつあります。

では話を戻して、中小企業診断協会秋田県支部ホームページは何でしょうか？

支部会員への情報連絡の場であり、協会に加盟していない診断士へ向けた入会誘いの場、そしてクライアントの方々へ向けたプロモーションの場に仕立てようと狙っていると理解しています。でもそれだけ？こんな出発点でまずは支部会員の皆様とコミュニケーションできたらと思っています。ホームページ開設プロジェクト委員会活動を盛り上げ、出来るところからかたちにして行く、そんな貢献ができればと考えています。

背伸びをし過ぎかもしれませんが、夢は大きい方がよいと思っています。

ご意見をお持ちの方、会社のアドレスですが narita@fas.fujitsu.comまでe-mailください。委員長荒牧さんはじめ委員の方々と一緒に、頑張ります。

以上、最後に抱負を述べて終わりとさせていただきます。

新入会員プロフィール紹介

今年度の新入会員をご紹介します。掲載項目は以下のとおりです。

- ①登録部門 ②生年月日(年齢) ③自宅住所 ④自宅電話 ⑤勤務先名・役職 ⑥勤務先住所 ⑦勤務先電話・FAX
⑧主な研究テーマ ⑨他の公的資格 ⑩趣味・特技 ⑪『好きな言葉・座右の銘』 ⑫自己紹介



小田島 博

- ①212(情報)
②昭和31年6月22日(47才)

- ③〒010-0014 秋田市南通宮田9-10
④TEL(018-833-4444) FAX(018-835-9429)
⑤北日本銀行 秋田支店 支店長
⑥〒010-0001 秋田市中通3丁目2-41
⑦TEL(018-833-4444) FAX(018-835-9429)
⑧「財務診断」「市場分析」「経営戦略」
⑨宅地建物取引主任者
⑩ゴルフ(うまくありません)、読書、スポーツ観戦
⑪『何とかなるさ』

⑫北日本銀行に勤務しております小田島と申します。平成15年4月の定期異動で秋田支店に転勤となりました関係上、今回岩手県支部から秋田県支部に転入することとなりました。

赴任後6カ月が過ぎましたが、秋田県人の人情味の厚さにうれしく思っているところでございます。

最近までずっと単身赴任を続けておりましたが、子供たちが遠方に住んでいることや秋田県は美人の多い土地柄とのことで(?)、今回から家内と一緒に生活することとなり、第二の新婚生活を実践しております。

景気の低迷が続く中小企業の経営者も大変な状況が続いておりますが、皆様の発展のため微力ながらお役に立ちたいと考えておりますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

理論政策更新研修 開催

平成15年9月6日（土）会員51名の出席により、みずほ苑を会場に開催しました。日程は次のとおりです。

「最近の診断に関する理論及びその応用 ～経営診断原則、経営システム分析～」	中小企業診断士	佐藤 卓 先生
「新しい中小企業の施策」	東北経済産業局産業部中小企業課	藤井春美 先生



佐藤先生

佐藤先生は、協会本部発行の「経営診断原則・経営システム分析の視点」をテキストに使った講義でした。

平成11年の中小企業基本法改正、12年の中小企業指導法から支援法への改正により「診断士は公的な支援事業に限らず民間で活躍する経営コンサルタントである」とされたときの経緯、診断士が通商産業省令に基づく資格から支援法に基づく国家認定資格へ格上げされたことの狙いや効果などについて当時のエピソードを交えながら分かりやすくお話しいただきました。

また「経営診断・支援原則の解説」では「環境変化と企業経営」「中小企業診断士の役割」に言及、従来型の経営診断視点に「適法性」「倫理性」「所有性」「効率性」も追加し、今後は「経営資源ネットワークカー」もしくは「経営資源カタライザー」的役割を身につける必要があることを力説されました。

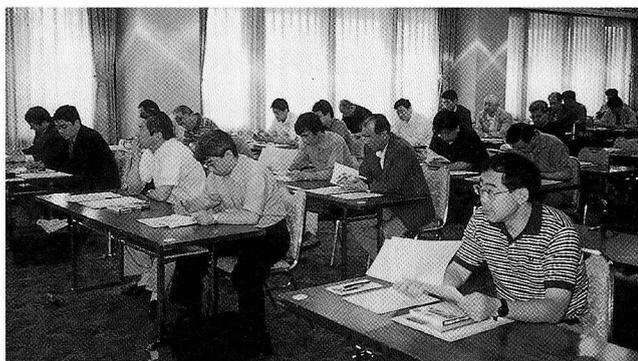
藤井先生からは、2003年版中小企業白書のポイントを中心に「最近の中小企業を巡る動向」「日本経済の再生と中小企業の役割」「新しい中小企業の施策」などについて、マクロ経済の動向と中小企業庁の施策についてご説明いただきました。14年度白書の特色である『数々の試練を乗り越え、わが国経済の発展を支えてきた中小企業の「強み」を確認し、中小企業こそが経済再生の先導役であること。中小企業金融における地域金融が有している役割を再評価し、中小企業の資金調達力の強化の道を探求。』等について理解を深めることができました。

後段では平成16年度予算の概算要求についても具体的要求金額を含めて説明がありました。



藤井先生

研修終了後は恒例の懇親会ならぬ「情報交換会」。今回は初参加の小田島博（北日本銀行秋田支店）佐藤守孝（㈲エイ・アンド・エイ；松戸市）成田広樹（高井会計事務所）渋谷健太郎（秋田県総合公社）各氏を囲んで大いに盛り上がりました。とりわけ佐藤会員は東京支部登録ながら当県研修へ参加、来年以降も継続参加を表明され、今後とも当支部会員との交流が深まりそうです。





『企業診断士からみた 頼朝と義経』

工藤経営診断事務所
所長 工藤義和



I. 頼朝挙兵の社会的背景

保元平治の乱の敗者源義朝の嫡子源頼朝は、平清盛の温情により一命をとりとめ伊豆に配流された。

後年、頼朝成人後平家打倒の挙兵をしたために、歴史家は平清盛の中途半端な源氏一族に対する粛清を政策判断のミスと評価した。このような歴史的評価のために、その後いかに多くの無益な殺傷が行われたか想像しないわけにはいかない。つづく時代の戦いの勝者の敗者に対する処分が、平清盛の轍を踏まぬようとの配慮からか、敗者の一族を根絶やしにするという苛酷な事例が数多く見られるからである。

だが、私はそうは思わない。もしも平清盛が頼朝を処刑していたとしても、平氏打倒の動きを止めることは不可能だったと考えるからである。

そもそも頼朝挙兵の要因は、京都中央政権の末期的ともいえる腐敗に内在しており、その権力の中枢をしめる平家一族に対する地方鎌倉武士団（納税者集団）の反発に端を発している。平安朝末期の無能な公家集団の行政機能マヒを、武家の頭領としての平清盛が一時的には凌いだ、結局は公家集団にとってかわった平家一族の行政手腕も破滅的な財政難を克服できなかったのである。平家一族は公家化することにより行政の権威を高めようとしたが、更なる財政悪化を招き、増税の矛先が平家とゆかりの薄い有力者や地方在郷の武士団に向かった。今流に言えば不公平税制が強制されたのである。つまり、これは世にいう源平の戦いではなく、中央政権に対する地方豪族の政権奪取の戦いと見るのが穏当であろう。

頼朝挙兵の実質的な費用負担者は北条家を筆頭とする鎌倉武士団の面々である。頼朝に金があったわけではない。頼朝は単なる神輿である。義経が頼朝に代わって京都に進めた軍勢は、平家の御家人が六割強のシェアを占めていたといわれている。結果的には、頼朝は源氏の貴種であったため時代の政権抗争に利用されたということになる。

II. 義経悲劇の発端

頼朝挙兵の時、義経は平泉の藤原秀衡の庇護の許にあったが、急遽鎌倉に駆付けた。義経も兄頼朝と同様、

平清盛の温情により一命を得ている。この義経を平泉の藤原秀衡がどのような経緯で庇護したのかは不明だが、当時の政治情勢の動向から将来に向けての一種の保険を掛けたのではないかと推測されている。

つまり、万一平氏の政権が崩壊して源氏が政権を掌握したときを睨んだ措置だというのである。的を得ているかもしれない。兄頼朝が国の政権交替という壮大な舞台の上にあるのに対し、義経の思惑は源氏の再興という単なる血族一派の盛衰を想定しているにすぎない。この思惑の違いが悲劇の発端であろう。

義経が兄頼朝の軍勢（実質は鎌倉武士団の軍勢）をもって京都に攻め入り、平氏の兵力を駆逐して、ついに壇ノ浦において平家を一掃した。この時平家は幼帝安徳天皇を抱えていたのだが、この天皇の権威も時代の趨勢に埋没したのが政界の厳しさを表しており、哀れを誘う。

さて義経は意気揚々と京都に凱旋した。京都の義経に対する朝廷あげての歓迎ぶりに義経は興奮したであろう。時の実質権力者後白河上皇から新たな官位を授かり、義経は源氏再興まぢがいなしと浮足立つ。義経は頼朝の上洛を建議した。義経はいちいち頼朝の（背後を固めている鎌倉武士団の）神経を逆撫でしたことになる。鎌倉方は、京都の公家集団と結託して失敗した平家の政権運営に対して反発したのであり、もし頼朝をはじめとした源氏一門が平家に代わっただけでしたら、政変の意味を失う。このことを警戒して、すでに義経には予め鎌倉方の決済なしに勝手に官位を受理してはならないと通達してあるのである。これを無視した義経は、頼朝の政治献金集団である鎌倉武士団に無用の不信感を与えたことになり、政治センスの欠如を露呈している。頼朝がもし義経の心情を理解したとしても、義経の要請に応じて上洛できる状況にはないのである。

鎌倉武士団は政治の拠点を鎌倉に据えようとしており、当初は自主徴税権を関東以北に限って、近畿以南については従来どおり朝廷に委ねてもよいという妥協的なものであった。しかしその後の動静では、近畿以南の納税者も争って税率の安いであろう鎌倉に納税しようとして画策されたことは歴史の証明するところである。

義経は鎌倉からわざと逃がされ、義経追討を名目に全国津々浦々に鎌倉方の御家人が配備された。最後は近畿以南の徴税権も実質的には鎌倉幕府のものとなり、朝廷方の権利は無と帰した。鎌倉方のしたたかさが鼻につくが、全国的に朝廷方に対する永年の納税者の不信感がそうさせたと解さざるを得ない。義経がいまひとつ社会の変化を理解し妥当に対応していれば、悲劇

は未然に防げたと思うのだが、その生い立ちからみて無理な相談かもしれない。

III. 頼朝の役割

義経の最後は悲しいが、逆にもし義経の思惑が機能していたならば、頼朝の命が危ないのである。義経の要請どおり頼朝が上洛したならば、源氏の血脈の正当性から推して間違いなく後白河上皇より総理大臣クラスの官位を与えられる。しかし、それは関東武士団にいわせれば平清盛が源頼朝に代わっただけであり、再び混乱する事態が目に見えている。「貴方たち源氏の兄弟はそんなことを考えていたのですか、では約束が違いますから、私達は手を引かせていただきます。」ということになれば、頼朝の立つ瀬はない。義経には鎌倉武士団の実質的な経済力よりも、朝廷の権威のほうが有り難いという時代錯誤的感覚が抜けきれていない。もともと鎌倉武士団には源氏のお家再興など眼中にはない。自分たちの存念を通す手段として、頼朝の出が便利だったにすぎないのである。

義経と鎌倉武士団との思惑の相違については、義経の軍勢に軍事奉行として同行した梶原景時が、途中義経の言動がいちいち気に喰わなかったらしく、事細かく義経の悪口を逐次鎌倉に注意している様子からも窺える。この梶原景時の讒言が頼朝義経兄弟不仲の原因と指摘する人々がいるが、そのように単純なものとは思えない。

その後さまざまな経緯をとまなないながら、結局は頼朝の最後も腑に落ちないものとなっている。「吾妻鏡」は鎌倉幕府創設の事情を、後年に至り編纂されたものといわれているが、この歴史書では頼朝が建久四年十二月鷹狩りの帰途に落馬し、翌建久五年二月に死亡するまでの期間について、その記録が途絶えているらしい。朝廷からの見舞いの使者は来なかったのだろうか、医者には見せなかったのだろうか、疑問が残る。いやしくも幕府創設の功労者であるトップに扱いはして理解に苦しむところであり、日本史の七不思議に数える人もいるが、常識的には、その間の事情に幕府の権力機構にとってなにか不都合があり、記録に止めることが憚られたと推測されるところであろう。もしかすれば、落馬の事実もないのかもしれない。現代であれば東京地検特捜部の調査の手がのびるのではないだろうか。このような状況から、自ずと頼朝の鎌倉幕府における役割というものが見えてくる。頼朝につづく頼家、実朝三代鎌倉将軍の末路の哀れさは誠に示唆的であり、鎌倉幕府の性格を雄弁に物語ったといえる。

企業の経営者には是非この源氏兄弟の葛藤に思いを馳せ、企業経営の舵取りに誤りなきよう留意されたい。

随筆



『「やまい」快方に向かう』

支部会員 亀谷 實

昨秋突如、軽い脳血栓におそわれた。症状はろれつ回らずの言語障害と半身脱力で手足意のままにならない体調不良であった。医学の進歩著しく、点滴に血栓溶かす薬を投じて、3週間すぎには退院の運びとなった。何らかのまえぶれ有った筈なのに「鈍」でシグナルの完全見落としてであった。幸い家内の早いアクションのおかげと、いい加減な性格が幸いしたようで、快方に向かっている。

非常勤の仕事も、TDKOB会将棋幹事も、タバコも全てやめた。命あってのものだねである。禁煙は何回かチャレンジしたが失敗の連続であったのに、今回はヘビースモーカーもあっさり止められた。我ながら感心した。

快方の度合いは、通院を仕事にし週1診察に家と病院往復30km余を車で通えるまでに回復した。不幸中の幸いで、今のところ後遺症はあまりなく済んだ。ただ喜怒哀楽の中樞神経はやられたようで、とみに涙もろくなった。

ここ数カ月で懐しの少年・青春時代に帰った。5月に地元小中学の同級生で古希祝いをした。高齢化時代ではザラの古希も体調不良者多く、還暦時にくらべ半減であった。新潟弁、津軽弁、東京弁の人も地元の言葉を操り、少年時代を想い起こせた。更に6月には昔の名称、秋田大学鉱山学部冶金学科昭和32年卒の同級会に参加した。卒業以来半世紀ぶりの熱海市での再会とあり、無理を承知で出席した。集合場所の熱海駅ではお互いに変わりすぎ、再会に苦労した。ついに記憶喪失症にかかったといぶかしみもした。しかし直ちに青春時代にたちかえり感激した。健康損ねてから何かにつけ消極的となり、8カ月余体調心配し、地元を離れることできなかつた。今回3泊4日の余裕ある旅とはいえ、自信回復につながった。

先月はまた診断協会本部より、思いもよらず永年表彰される栄誉にあずかり、縁起の佳い歳となった。来年の同級会は大学の所在地、秋田市手形でと新しい目標ができた。最近の老化速度は5倍速である、何とか2倍速まで減速して、更には再発防止に努めて、診断士更新研修、同級会に参加したいものと思っております。



『旧婚旅行記』

北都銀行 審査部
佐瀬 道則

銀行員になって25年目。過日社内規程により永年勤続表彰を受け、その「ご褒美」として妻と二人、結婚21年目の旧婚旅行を取行した。

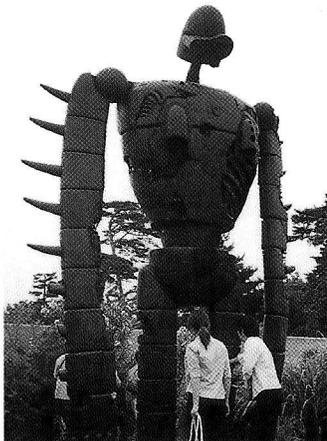
I. レノン・ミュージアム（埼玉県；さいたま市）

ビートルズが解散したのは、私が洋楽に興味を持ち始めてほどない頃だった。ここではジョン・レノンの少年時代から1980年12月に凶弾に倒れて生涯を終えるまでの一生を、時代に沿った9つのゾーンで紹介しており、最後は彼が残した数々のメッセージが壁一面に書かれたファイナルルームにたどり着く。椅子に座ってそれらの言葉と向き合っていると、一つ一つの言葉の持つ重さや深さが胸に沁みてくる。



日常の喧噪から離れ、しばしの間時の経つのも忘れさせるような不思議な空間づくりが印象的であった。

II. 三鷹の森ジブリ美術館（東京都；三鷹市）

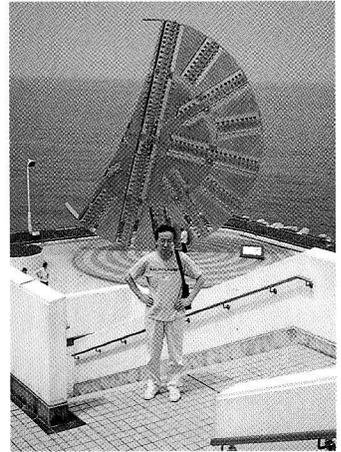


井の頭公園の一角にあり『迷子になろうよ、いっしょに。』というコンセプトで作られたスタジオ・ジブリの美術館。不思議な形の建物、趣向を凝らした展示物、中は迷路のようになっている順路はなく、順路を決めるのは自分自身である。

とにかく細部まで手を抜かずに徹底的にこだわったことがよく分かる。子供はもちろんのこと、大人でも十分に楽しめるところがうれしい。私の場合は、子供達がまさに「ジブリで育った世代」だけに、懐かしさもひとしおであった。

III. 海ほたる（千葉県；木更津市）

総事業費1兆4千億円をかけて平成9年に開通した川崎市と木更津市を結ぶ東京湾横断道路（アクアライン）の途中、東京湾上のサービスエリアである。3階までが480台収容の駐車場、4・5階はショップやレストランになっている。展望デッキからは360度一面の海、晴れていれば富士山や横浜港も見えるところのこと。



人工島の片隅にトンネルを掘削したシールドのカッターフェイス（14.4m）の巨大モニュメントが建っている。現在工事中の秋田中央道路も基本はシールド工法とのことで、カッターフェイスが轟音を上げて地下を掘り進む姿をイメージすることができた。

IV. 六本木ヒルズ（東京都；港区）



民間再開発としては国内最大規模となる約11.6haの施工区域に、「まち」としての殆どの機能が揃う複合施設である。とにかく「広い」「高い（建物も値段も）」「多い（人が）」。物販・飲食だけで200店舗以上の集積は、とても数時間程度では見切れない。開業以来2カ月弱で1千万人という集客力もうなづける。

17年の歳月を費やしての竣工。相当数いたと思われる地権者との交渉・調整、設計変更も多々あったと推測され、一時再開発に携わった経験のある私としては、まばゆいばかりのビルの陰に六本木再開発関係者の血と汗と涙を見る思いであった。「街」として時代と共に進化することを期待したい。

編集後記

◇更新研修の参加者は過去最多。体調を崩していた会員も元気に参加して、無事に終了しました。新旧会員がお互いに楽しく交流し、今後益々の活動充実を予感させました。（佐瀬 記）